

令和4年度 江戸川区立葛西第二中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで学ぶ生徒になる あたたかい豊かな心の生徒になる 健康でたくましい生徒になる 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	生徒が喜んで活動し、一人ひとりの確かな学力や個性、社会性を伸ばし保護者・地域から信頼される学校 本校で学ぶことに誇りをもち、主体的に粘り強く、豊かな社会性や思いやりをもった生徒 生徒一人ひとりの成長やそれを支える教育活動に最大の努力を惜しまない教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>新型コロナウイルスによる制約が余儀なくされるなかにおいて、本校の教育方針に準拠し、最大限の効果を得られる教育活動を全教職員が一丸となって遂行することができた。 <課題>ICT実践においても、昨年度はオンライン授業の開始など、様々な展開に移行することができた。ただ、昨年度同様に教員一人一人のICT技術の向上に専念する必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 「学力向上のための補習の充実」に向け、外部組織と綿密に連携した教育活動の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査等における結果分析に基づいた指導の充実と、教員の学習指導力の向上を図る 補習教室担当と綿密に連携した指導実践を図っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査における中央値において東京都、全国数値を上回る 英検、漢検、数検を6回実施し、100名以上受験 年間135回以上の補習教室の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語は東京都、全国ともに上回る。数学は東京都と並び、全国は上回った。理科においては東京都を1下回った。以上の結果より、理科の課題を見出し、改善に向けた協議を実施し、今後具体的な方策を見出していく。 英検2回で延べ人数66名、数検2回で9名、漢検3回で113名と回数では目標値を上回ることができた。参加人数は延べ人数で188名となるが、同一人数である可能性があるため、今後も自己の研鑽に励み生徒の育成を図っていく。 放課後補習教室においては、全学年の平均として138回実施することができた。令和5年度は、英語も追加されるため、よりしっかりと学力向上につなげる活動としていく。 	B	検定や放課後補習教室など、次年度もより生徒たちが自己の学力を高めることについて、意欲的に取り組めるように指導し学習部を中心に立案する	放課後補習教室の運営立案を定める。 各教科における全国学力テストにおける数値向上計画を進路学習部を中心に立案する
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業時に5分程度の体づくり運動を実施。昼休みの外遊びの奨励とボール等の貸出し 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストにおいて、各学年東京都の平均値を上回る。 全体の50%以上の生徒が都の平均値を上回る 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストにおける各学年の東京都平均値を上回る。全体生徒の50%が都の平均を上回るという目標を達成することができた。 次年度は年度途中より、校庭に仮設校舎の建設がなされ、使用制限が要されるなか、本年度の目標値を維持、向上させるための工夫が必要だと考える。 	A	次年度の校舎建て替えの条件が困難であっても、目標を維持するように教育実践してもらいたい。	次年度秋以降の校庭制限に伴う授業などの計画を次年度当初より検討していく。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の充実（読書ノート活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） 学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習（調査、調べ学習、体験活動、討論等）に図書館を利用する 生徒が主体となった掲示物作成と、分類別書籍の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が最低週1回は図書館または、学校保有書籍を利用する 昼休みの図書館の開放を150日以上行う 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 読書科の充実においては、読書活動の充実、各学年のビブリオバトルの活性化に応じ、探究的な学習において図書館を利用する生徒が増してきた。結果、数値目標を達成することができた。 昼休みの開放は140回で、目標値を下回る結果となった。しかし、積極的な図書館開放を目指し、実践してきたため、次年度以降も同一目標達成のための取り組みを実践していく。 	A	過去のPTA予算をもって行ったバーコードが活用されていることをうれしく思う。	・本年度同様計画の実践計画のもと教育実践を図っていく。 ・ビブリオバトルについて、本会の説明でよく理解できた。今後とも継続行っていくもりたい。
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上とALTの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を使用した授業 	<ul style="list-style-type: none"> ALTを活用した授業を年10回以上実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ALTにおいては、本年度途中で講師が代わることがあったが、数値目標は達成する音がか。次年度はALTの関わり方が広がるため、次年度に向けて計画を立案していく。 	A	本年度同様成果を期待します。	・新たな取組にたいし、実践の可否を検討し、適切な運営を図っていく。
	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 「チャイルド・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査（アンケート）の年2回実施 スクールカウンセラーとの面談 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・・・10件以内 不登校・・・15名以内 学校満足度要支援群出現率10パーセント未満 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの件数においては目標値は下回っているが、今後も適切な指導対応が必要である。また、不登校においては目標数値達成のため、次年度も組織的な対応を実施していく。また、本年度はSSWとの連携が充実してきたため、次年度も引き続き充実した取り組みを目指していく。 学校満足度要支援群出現率19パーセントであったため、目標値よりも高い数値となっていました。それでも全国28%の数値よりも大きく下回っているため、今後も目標達成のために工夫改善を行っていく。 	B	・まずは教職員間の関係をよりよくし、生徒の情報が活発に交差し合える環境作りを管理職に求める。そして、円滑な情報共有のもと、いじめ対応に關した未然防止、早期対応の徹底を図ってもらいたい。	・いじめに関する未然防止、早期対応をしっかりと心掛け、いじめ対策委員の適切な運営を継続的に適切に行っていく。 ・SCの全員面談など、あらゆる機会を活用し、生徒理解を深めていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会を実現する支援シートの充実を図るため、生徒を支援するシートの作成を充実させ、周知徹底を図ったのち適切な指導実践を図っていく。 特別支援教室拠点校として、本校の実践をモデルケースとし、他校へ発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会におけるスクールカウンセラーの参加と、SSWとの情報交換による情報を支援シートにまとめ、指導実践にあたる 特別支援教室拠点校の取組と、「通信」として巡回校に周知していく 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会の開催・年25回 「巡回校より」の発行を月1回以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会の開催に関しては、年30回を超えて開催することができた。その資料をSC及びSSWと共有することで、適切な支援を実施することができたと考える。課題として、不登校及び特別な支援を要する生徒の取り組み向上にはつながってはいないものの、今後より適切な指導実践が必要であると考える。 特別支援教室における「巡回校より」発行数は下回ったが、適切な情報発信が行えていると考える。次年度は、発行数など目標値をより精選し、実践に移していく。 	A	今後も成果を期待します。	・組織的な実践が行えるように、今後も特別支援部会の有効的な実践運営に努めていく。
	子どもたちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 適切な対人関係を築くために必要なソーシャルスキルを身に付けさせる指導の充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会をはじめ、スクールカウンセラーによる「hyper-QU」の分析と手立での構築を充実させる。 健康育成上の諸問題のある生徒の情報を共有し、実態の即した適切な関わり方を実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の「hyper-QU」の実施と、年4回以上のSCによる分析の実施 月に1度のSSWの来校時の情報共有と、諸問題のある生徒情報共有の適宜実施。 不登校生徒数を昨年度の半分にあたる20名以内にする。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のQUの実践は計画通り行うことができた。また、SCによる分析は、特別支援部会がより充実した実践になったため、年間4回の打ち合わせ以上に充実させることができた。 不登校においては、人数こそ数値目標を達成させることは叶わなかったが、それぞれの生徒の実態を把握する状況までは至っている。次年度以降は、数値目標の捉え方も変えていく必要があると考える。 	B	上記「生き生きと学ぶ学校づくり、健全育成に向けた取組の強化」に準じ、適切な対応を期待します。	・いじめ同様に、不登校要因を早期に見出し、家庭との連携のもと、適切な対応を図っていく。 ・SSWをはじめ、外部機関との連携を密に図っていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭、地域、関係機関との連携を強化するために、学校評議員会をはじめとする、関係機関と充実した指導計画の作成に臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会における学校関係者評価の承認をもとに、学校HPにより地域、家庭への周知を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回以上の学校評議員会の開催と、学校関係者評価の立案と振り返りを実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校評議員会の開催は、計画に則って開催することができた。新校舎建て替えの情報や、新型コロナウイルスの影響下での教育実践など、本校の取組を伝えることができた。また、本調査における次年度の目標においても適切な意見を頂戴することができた。 	A	次年度以降の学校公開など、関係機関との連携を密に図っていく。	・学校評議員、PTAをはじめ多くの保護者や地域の方々へ、学校の状況を広く発信し、理解と協力をもとめ、生徒の健全育成につなげていく。
	教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修の実施、タブレット端末活用した授業を計画的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修を3回実施 ICTを活用した授業を実施 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修及びICTを活用した授業研究は、当初の計画通りに実施することができた。次年度においては、トリルパークを活用した家庭学習の充実も図っていくように計画をしていく。 	A	今後も成果を期待します。	・CIGASスクール構想を進め、より効率化が図れるように工夫を重ねていく。
	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題に沿った研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に授業研究を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が年3回以上の授業研究を実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開を4学級同時に3日行った。全教員が協議会に参加し、指導力向上につなげる取り組みを実践することができる。次年度も同等の研修に努めていく。 	A	今後も成果を期待します。	・教職員の研修に関しては、本年度同様意欲的に実践していく。
特色ある教育の展開	学校における働き方改革プラン	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営支援を担う人材の活用と、適切な職務遂行が実践できるように、職務分担を適切に計画実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> SSS（スクールサポートスタッフ）の有効的な活用と、副校長補佐の適切な活用により、教職員の職務軽減を図り、働き方改革を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に一回以上のSSS、副校長補佐との打ち合わせを行う。 教員一人の残業時間のひと月の累計を45時間以内とする。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> SSSと副校長の打ち合わせにおいては、常にSSSの業務に支障がないかを確認し、適宜調整を行ってきた。そのため、SSSは昨年度以上に円滑な業務を遂行することができた。また、SSSは昨年度以上に円滑な業務を遂行することができた。また、SSSは昨年度以上に円滑な業務を遂行することができた。また、SSSは昨年度以上に円滑な業務を遂行することができた。 全体的な残業時間は削減し、数値目標は達成できてはいるが、個では達成できていない月もあるため、今後も働き方改革の推進を進めていく。 	A	働き方改革の一方で、教員とPTA、保護者との関わりを大切にしたい。	・働き方改革をより全視させるように、保護者との関わりを大切にしたい。また、関係機関との関わりを大切にしたい。
	生徒への意識付け「ブライド8」	<ul style="list-style-type: none"> 葛西第二中学校で学ぶ事に誇りをもち、向上心と自立心を持った生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼、保護者会、学校便り、HPにより、浸透を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回（10月4月）生徒へのアンケートの実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは計画的に実施することができた。3学年の生徒が受験の面接などに、本校の取組として活用できるなど、生徒自身も自覚をもって取り組むことができてきている。 	A	今後も成果を期待します。	・本年度同様、本校で学ぶことに誇りをもてる生徒の育成を実践していく。
	葛西二中オフィシャルボランティアの募集	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事におけるボランティア活動の組織的推進 	<ul style="list-style-type: none"> 葛西二中オフィシャルボランティアの募集 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒数の80%以上の参加 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響があるなか、自転車盗難運動、校内落ち掃きボランティア、宇喜田公園の植栽を実施し、延べ278名（68.6%）の参加があった。目標数値は達成できなかったが、新型コロナウイルスの影響下においても成果として捉えることができる。 	B	今後も成果を期待します。	・新型コロナウイルスの対応が見つめなおされる5年度において、再開される様々なボランティア活動を積極的に取り入れる。